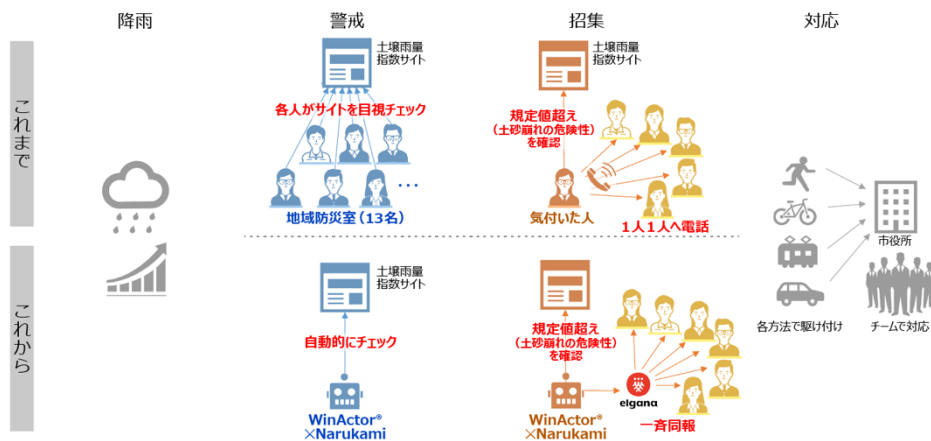


【別紙 1】 志摩市事例詳細

■ 実証実験内容

志摩市では、三重県土砂災害情報提供システム（以下、システム）における土壌雨量指数の値が閾値を超えた場合、迅速な災害対策を実施するために、職員の職場出勤を規定で定めています。システムでは通知機能を保有していないため、職員は平日休日および日中・夜間帯に関わらず、システムに都度アクセスし、土壌雨量指数の確認を行っていました。また、土壌雨量指数が閾値を超えた際は、気付いた職員が電話で各職員に呼びかけを行い、出勤対応をしていました。

本実証では WinActor（RPA ツール）を利用し、システム上の土壌雨量指数を監視し、閾値を超えた場合には elgana（ビジネスチャット）を経由して職員へ通知を行える形にしました。



■ 利用者の声（防災関係部署）

本実証を通じて、理論的には確認作業に関して職員 13 名で年間 130 時間の軽減効果が期待できることが分かりました。また、システムの定期的な確認に起因する心理的負担からも解放されました。

elgana から通知が届くことで、各個人が情報発信する必要がなく、土壌雨量指数を職員全員が同時に把握することができることから、通知を受けたタイミングで職員が迅速に行動に移すことができました。また、プライベート利用のチャットとは別で通知され、「メッセージの既読/未読」を相互で把握できることから、見落としも防止することができました。

■ 本実証推進者の声（情報推進担当部署）

本実証を通じて、費用対効果が検証されたことから、導入価値は非常に高いと考えています。また費用対効果という定量効果だけでなく、職員の心理的負担の軽減により、心身の健康維持の面でも効果が大きいです。

上記取組み以外にも、ビジネスチャットと RPA ツールに加え、OCR ツールを連携させることで、他の業務での削減効果も確認することができました。

今後、DX 施策を他の業務にも展開することで効率的な業務運営を実現すると共に、市民サービス向上との両立をめざします。